

人間中心設計手法の開発と、
それを用いた製品デザイン提案を行なっています。

略歴

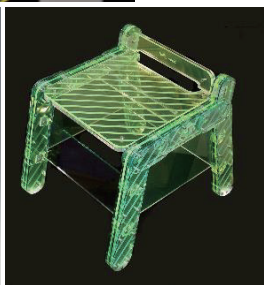
1992～2003年まで株式会社INAXのデザイン部門および営業企画部門に在籍し、デザインと人間工学についての業務に従事した。その後、札幌市立高等専門学校講師、昭和女子大学生活科学部を経て日本工業大学機械工学科に着任し、現在はプロダクトデザインと人間中心設計の研究を行っている。

所属学会など

日本人間工学会
デザイン学会
芸術工学会
道具学会
生理人類学会

研究紹介

プロダクトデザイン企画提案とデザイン手法開発



工業デザインの分野において人や社会を考慮する必要性が高まっていますが、その結果として非常に幅広い情報を考慮する必要が生じ、デザイン提案の難易度が急激に増加しています。それらの情報を効率的に取り込み、より良いデザイン提案をするための新しい手法の開発が急務です。当研究室では、ユニバーサルデザイン手法や人間中心設計手法を実際に用いたデザイン提案をすると共に、現在の人間中心設計手法の改良や、それを補完する新しいツールの開発・提案に取り組んでいます。

VRを用いた設計やデザイン評価、3Dプリントを活用したラピッドプロトタイピング環境構築にも取り組んでいます。

デザイン提案としては、子供向けの遊具や、義手、リハビリ機器、モビリティ、インテリア小物、家具などを扱っています。

共同研究の事例

NPO法人MAJとの義手のデザイン
茨城県立医療大学とのリハビリテーションアイテムの設計とラピッドプロトタイピングの研究
茨城県立医療大学とのVRを用いた半側空間無視症状検査手法の研究

主な作品

マグカップを利用したミュージックプレイヤーの提案
アクリルとネジを用いたファニチャーの提案
気管挿管時の感染リスクを低減するシールド
屋外でのPCR検査作業用ブース